

# 世直し

師友道友の活動を綴る善行伝承誌

世の中はすべて「受け持ち」なりと知るべし。

「受け持ち」とは「分」の謂いにして、これ悟りの一内容と  
いうて可ならむ。

森信三先生一語千鈞より

第0052号

2020.12月号

令和三年

実践人福岡仁風読書会

再生の題字（森迪彦様提供）は、森信三先生の直筆です。



# 現代における孝の哲理

森 信三先生 講述

— マナコを閉じて親の祈り心を —

十孝とは親の祈り心への目覚めに始まりその洞察によって深まる

## 親の祈り心

そうした親の祈りの心について、これを仮に五つにわけてみますと、

- ① 五体健全の願い……(五体満足に障害なく健康であってほしい)
- ② 順応成育の願い……(年齢に応じ遅延なく成長してほしい)
- ③ 学業勉勵の願い……(勉学にも意欲的で積極的であってほしい)
- ④ 德行善美の願い……(人格・行動ともに申し分なくリッパになってほしい)
- ⑤ 知情円満の願い……(智慧と情愛とがとけあい円満にして温かくあってほしい)として五大別されると思います。

ところで孝経の「身体髮膚これを父母に享く、あえて毀傷せざるは考の始なり」は、正に、父母の祈り心の第一である五体健全の願いにあたるものでありまして、さしずめここに「考」の第一があると申せましょう。「父母恩重経」に「父母に十種の恩徳あり」として、十種をあげておりますが、その第九としては「遠行憶恩の恩」があります。これは親元を離れて遠き地にある子の安否を、日夜憶いつづける親の恩愛の情を指して言うのであります。

ところが現在ののような交通過の多い時代にあつては、親として「交通安全の願い」は特に切実だといえましょう。そしてそれは、たとえわが子が成人して車の運転はできるようになった場合でも、仕事の上で、あるいは日曜や休日などで車を運転して遠出するような場合にも、どうか交通事故だけは起こさないでほしいというのが、親として切なる願いといえましょう。ですから少々帰りが遅いと、事故

でも起こしたのではないかと、心配するわけですから、そうした場合、行先からの連絡だけはできるだけヒンパンにしてほしいものであります。

それ故わたくしとしては、先に掲げる五つの願いよりも、むしろ次に掲げる五つの方が、より現代的で切実な願いであり祈りといえるかと思うのであります。

- 1 無事故安全の願い (何とぞ交通事故を起さず無事であってほしい)
- 2 不摂悪食の願い (また暴飲暴食などして身体を傷わないでほしい)
- 3 不染悪趣の願い (さらに賭けごとや色ごとに染まり、ないしは悪趣味に陥ち入らないでほしい)
- 4 不為悪行の願い (また人の道に反した悪行だけは絶対にしないでほしい)
- 5 不怠職務の願い (最後に真面目な職業につき職務精励であってほしい)

この五つの願いは、先きの五つの願いよりも、より基盤的な願いでありまして、この基盤の上に、前の願いも成立すると言えましょう。今日のようにすべてデンプオが早く、また刺激的誘惑の多い社会環境の中にあつては、いわゆる非行青少年の続出が案ぜられてなりません。それ故このあとの5つの願いこそ、親として掌を合わせて祈らねばかりの願いだとも申せましょう。

実践人福岡仁風読書会 第48回 11月7日(土)

場所福岡県糟屋郡志免町向ヶ丘2丁目4番3号 仁風庵にて

(実践人の家の会員であればどなたでも参加できます)

(参加費無料) 詳細は、世話人へお問い合わせください。

## 母のない子 (一)

## 手記

たまたま、父が給料(二万円)を家の畳の下にしまうのを見たこの子が、それを持ち出し、その金で食物を買い、食い放題に食べ、その夜は家に帰らず山にねとりました。翌日家に帰ったかと思うと、父にひどくせつかんされ(ゴムロープで真裸になった体をうたれた)再び家を飛び出し、近所を放浪し、学校の控室で一夜をすごしました。(カーテンをちぎり寝具にあてる)その後昼間はわらこずみにかくれ、腹がへつてくると持ち金で食糧をかいこんでいたということです。

この時ばかりは、父が学校にはじめて来られ、彼の搜索に協力を求められました。久留米の児童相談所にも相談しましたが、結局は家庭に期待するといふより、学校に於いて、たとえわずかの時間であっても、もう一度長期的に考えなおして、じつくり腰をすえてかからねばと一層決心を新にしました。

四年の時から私は学級経営の重点の中に情操教育を大きくとりいれました。音楽(合奏)を盛んにすること、詩をつくること、習字図画をすることがそれです。

Mはハーモニカを吹きたいというので、それを与えました。詩をつくるノート、習字図画の用具ももちませんでしたのでそれも与えました。

詩の生活もはまりました。口ではなかなかほんとうのことをいわない彼も、ノートには自分のみたもの感じたものを率直に書きあらわして来ました。一つ一つの詩を通じて彼との心の流通をはかっていきました。遊びの中にも彼の詩を時々とりだし話題にしました。詩を通じエンピツ対談もしてみました。話し合いにも応じてくれました。どんな些細なことがらでも、そこから問題をみ

つけ、明るい方向へと導きたい一心でした。

四年末の詩集「四十九人詩集」にはカエルの作品が載せられました。

かえるがでてきた

ぴよんぴよんと足を動かしている

田んぼのどてにみえた

春が来たと喜んでいます。

当初の残酷なものから、明るい愛撫へと変容してゆく彼の心の動きが、私はたまらなく感動せずにはおられませんでした。

卒業文集には「ぼくは四年のころが一番悪かったのほんとは先生にめいわくをかけたと思っている。しかし先生は、ぼくを助けて呉れた。」と書いています。

Mは一見キョロキョロしてひきしまりのないだらつとした子に思われがちだったが、なかなかどうして非常にすばしこさを持っていることがわかりました。彼が精神が集中すると記憶力もかなり高まってくるし、運動にしても身軽に奮斗する姿が見られてきます。私は授業中に時々今までわかったことをすぐ彼に復唱させたり、発表させたりして彼の注意の持続性に苦心してまいりました。要は如何にして彼の不安をとりのぞき、精神を集中させるかに、彼の指導の要訣があると考えたのです。

音楽においては歌うことはあまり上手ではなかったが、ハーモニカを与えてやってみると、吹き方を人に聞いたり、自分で研究してみんなと一しよに演奏できるまでになりました。完全とは言えないにしても、「旅愁」「ドナウ川の漣」「雪山讃歌」の曲を吹こうと意欲をもやしていました。

日本一きれいな博多駅・福岡の街に！

第 324 回

# 博多駅 早朝清掃

毎月 **8** 日 午前 6 時 15 分～

【第一回】平成 5 年 12 月 8 日開催

福岡実践人・JR九州博多駅  
精華女子高等学校・福岡掃除に学ぶ会

 ハウスメイト



第324回 博多駅早朝清掃

満27年

11月8日(日曜日)

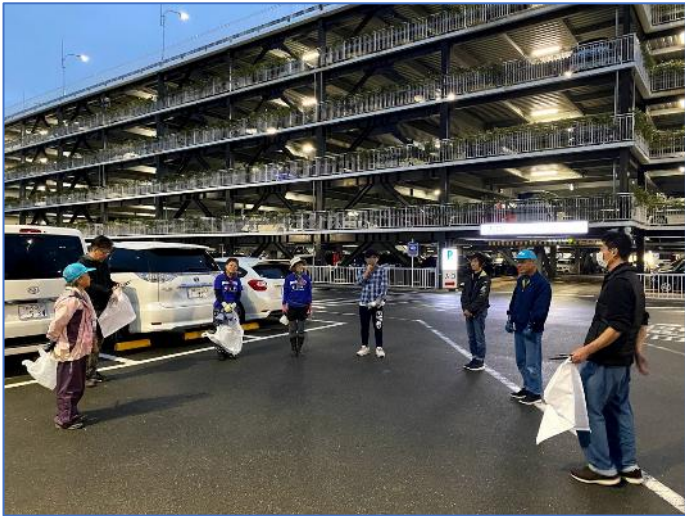
146名参加



第324回目、満27年の博多駅早朝清掃は、日本を美しくする会から利会長、博多駅駅長総勢146名での活動となりました。利会長より小・中・高・大・一般の最長継続参加者に表彰いただきました。

平成5年12月からの活動も博多駅に根を張りました。帆足先生が唱えた「掃除は教育の延長」という言葉が蘇って来ます。30年、50年、100年と続く清爽活動を目指して一步一步前進。世話人：富吉袈裟右衛門 拝





# 新新塚駅早朝清掃/いづか明星寺団地自治会

10月17日(土曜日) 6名参加



令和を巡る早朝清掃／戒壇院 2020.1.25～

11月28日(土曜日)

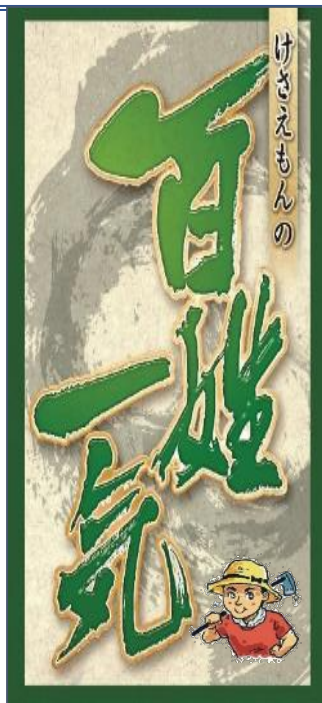




筑前大分の耕作放棄地へゆかいな仲間たち降臨



2020/11/08



前 明星寺団地草刈り作業 後

2020/11/01

2020/11/01



ゆかいな仲間たちin楽農人宇美試験農場

# 楽農人15年の農村再生事業に幕in鹿児島大楠農産

11月9日(月曜日) 最後を飾ったのはゆかいな仲間たち



# 生命の林と人生 四九、 草木と子供

020-11

光然京カルデラ

島崎藤村のエッセイ集「飯倉だより」のなかに、庭の木同士が語り合っている場面があります。そのなかで一本の木が言います。

人間は一生に二度ほど私達の方へ来る。一度は少年の時、今一度は年を取ってから。

なるほど、その通りだなあ、と思います。

ぼく自身を振り返ってみても、小学生のころにはお寺の木に登ってみたり、学校の裏山に入って行って木を揺すって木の実を落としたりしたのですが、中学生にもなると、そんなことが子供っぽく思えたようで、木登りはしなくなり、いつか木を忘れていきました。ぼくの心に木がもどってきて、森を歩いたりするようになるのは、何十年も経ってからのことでした。

島崎藤村が右のような木のことばを書いたのも、藤村自身にもおなじような経験があったからだろうと思います。

藤村が自分の子どもたちのために書いた「ふるさと」というちいさな本があります。この本には、藤村が幼い時分を過ごした木曾の馬籠の思い出がさまざまに描かれているのですが、その一つに「梨や柿は友達」という一章があります。はじめのほうだけを引きます。父さんのお家の庭にはいろいろな木が植えてありました。父さんはその木を自分のお友達のように想って大きくくなりました。お前達の祖父さんのお部屋の前にあつた古い椿の木の側には梨の木もあつて、毎年大きな梨がなりました。

あの青い梨の実のなつた樹の下へは父さんもよく見に行つたものです。

「もう食べてもいいかい。」

と父さんが梨の木に聞きに行きますと、「まだ早い、まだ早い。」と梨の木は言つて、なかなか食べてもいいとは言いませんでした。

ふるさと馬籠で、藤村はそういう子供時代を過ごしていたのです。「鳥獣もお友達」という章もあります。木や草や獣を友達として育つたのです。

そして後年、晩年の大作であり、代表作であり、日本近代文学の最高峰でもある「夜明け前」が、この馬籠を舞台にして書かれます。人間と森林のかかわりを、根元から描き出した作品です。いいかえれば、これは、森の小説です。森を語るることによって人間社会の美と醜を描き出している。他に例を見ない、巨樹のような文学作品です。ここでは「夜明け前」の内容には立ち入りませんけれども若い人たちにはぜひ一度読んでほしいと思います。

ちくまプリマー新書〇二二

木のことば、森のことばより

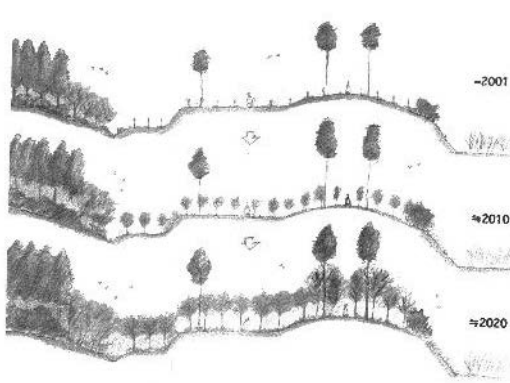
著者 高田 宏

二〇〇五年十月十日発行

二〇二〇年十一月二三日

広葉の林を育てる会

興膳 丈治





	12 月の活動予定表								1 月の活動予定表						
日	5	6	8	19	20	26	27	30	2	8	10	16	17	23	24
曜	土	日	火	土	日	土	日	水	土	金	日	土	日	土	日
行事活動名	福岡空港（ミリオン）清掃 第31回	楽農人遊休農地再生楽交in宇美農場	博多駅早朝清掃 第325回	新飯塚駅早朝清掃	楽農人遊休農地再生楽交in宇美農場	令和を巡る早朝清掃	楽農人令和元年の締めくくり会	戒壇院 年末年始の準備	福岡空港（ミリオン）清掃 第32回	博多駅早朝清掃 第326回	楽農人遊休農地再生楽交in宇美農場	新飯塚駅早朝清掃	楽農人遊休農地再生楽交in宇美農場	令和を巡る早朝清掃	楽農人遊休農地再生楽交in宇美農場
場所	福岡空港 周辺一万m	福岡県宇美町	博多駅筑紫口	福岡県飯塚市新飯塚駅	福岡県宇美町	福岡県太宰府市 戒壇院	仁風庵	福岡県太宰府市 戒壇院	福岡空港 周辺一万m	博多駅筑紫口	福岡県宇美町	福岡県飯塚市新飯塚駅	福岡県宇美町	福岡県太宰府市 戒壇院	福岡県宇美町
開始時刻	6時30分	10時	6時00分	6時30分	10時	6時30分	10時	9時	6時30分	6時00分	10時	6時30分	10時	6時30分	10時
運営団体	福岡清爽クラブ	NPO法人楽農人	福岡清爽クラブ	いじつが清爽クラブ	NPO法人楽農人	福岡清爽クラブ	NPO法人楽農人	福岡清爽クラブ	福岡清爽クラブ	福岡清爽クラブ	NPO法人楽農人	いじつが清爽クラブ	NPO法人楽農人	福岡清爽クラブ	NPO法人楽農人

発行人（編集人）富吉 袈裟右衛門

- ◇NPO法人福岡実践人 福岡清爽クラブ
- ◇一般社団法人 実践人の家 福岡仁風読書会
- ◇NPO法人 楽農人 楽農人笑仲くらぶ

〈合同事務局〉 〒811-2247

福岡県糟屋郡志免町向ヶ丘2丁目4番3号 <<仁風庵>>  
 TEL 092-931-8155（掃除） 931-8150（読書） FAX 092-931-8120  
 E-mail fukusoukai@souji.link（掃除）  
 shochu.club@rakunoujin.com（農業）

